

海外セーリングパース研修の感想

葉山町セーリング協会 松岡明日香

今回研修先となったオーストラリア・パースは、日本との時差が1時間しかないため、体も楽だったし過ごしやすかったです。また季節が逆なので日本では寒い時期に暖かいパースに行けたことがお得な気がしました。

パースは元々都会なイメージがありましたが、行ってみたら自然豊かで生き物もたくさんいてゆったりできる素敵な街でした。

このパースの海外研修に行かせていただき、私は海外のセーラー、パースと日本の違いや、様々な場面でもたくさんの学び、感じたことができました。

1つ目は、オーストラリアの選手達のセーリングに対する気持ちです。

オーストラリアの選手たちは、海を好きになって、ヨットを楽しんでいると思います。

パースのセーラーは、一回レースで転けちゃっても、結果だけにこだわらず、一つ一つのレースを楽しんでいて、今自分が置かれている環境、他選手とのコミュニケーションなど、積極的に自分からコンタクトをとり、楽しんでいます。海外から来ている私たちに対してもタイミングを見て気軽に話しかけてくれてとても嬉しかったです。パースの選手達は、順位関係なくセーリングを楽しんでいると思いました。

自分は一回順位が落ちると引きずっちゃうことが多いので、パースの選手のレースに対する気持ちや態度を参考にしていきたいと思います。

2つ目は、船に対する気持ちが、自分たちとは、大きく違いました。パースの選手は1人1艇持っていて、自分の船に名前をつけています。そのボートネームは、成績表にもその名前が出されるので、とても愛着が湧くなと思いました。当たり前かもしれませんがとても船を大事にしてて、海上では、フィニッシュしたら、ボートネームを叫んでいる姿や、ナイスファイトと船に声をかけている姿もありました。ボートは海を走る手段、道具ではなく、もう家族のような扱い方で、とても愛着を持って大切に接していることが、私は素敵だなと思いました。

私も、もっと自分が乗る船をパートナーとして意識して大切に、そして労り、これからの練習やレースに臨みたいと思います。

3つ目は、現地の方々の優しさです。

今回のパースでは翻訳を使わないように心がけていたのですが緊張していたのもあって、自分の言いたいことが上手く英語で喋れなかったりと苦戦しました。けれど、理解しようと真剣に聞いてくれて、とても嬉しかったです。

難しい単語などは、簡単な単語に直してくれたり、理解できているか確認してくれたり、とても心強く、会話がしやすかったです。

私のホストファミリーは4人家族で一つ下の女の子と4つ下の男の子がいました

2 人とも明るく優しくそして積極的で私のこともすぐに受け入れてくれました。

私は、ホストファミリーとクルージングをする機会がありました。

その時に、周りの沢山の方にも紹介してもらい、日本語でこれなんて言うの？とか私の好きなものなど聞いてくれたり、私も巻き込んで会話をしてくれたことがとても嬉しかったです。

もし、私が逆の立場になった時には、今回の経験を活かして、接して行けたらいいと思います。

その他に、この滞在中楽しかったこととしては、日が長かったので遅くまで活動することができたこと、本物のコアラに触れたこと、カンガルーに触ってエサをあげられたこと、美味しいチョコレート工場に行き、実際に作っている所を見たり試食したりしたこと、あげたらキリがないですが、色んなことが新鮮でとても楽しかったです。この滞在を通して、この研修に参加した日本のみんなとも仲良くなることができました。

このような貴重な体験をさせてくださった、JJYU の皆様、同行してくださったコーチ、支えてくれた保護者の方々、現地で色々なアレンジをしてくださったロイヤルパースヨットクラブの皆様、私達を迎え入れてくださったホストファミリーの方々、にとっても感謝しています。

ありがとうございました。

以上